

# 桜川文芸

## 俳句

【大和俳句愛好会】

立春の音を低めに夜のラヂヲ

鈴木ふみい

春風の迷う五差路や阿弥陀堂

古橋 益子

冬野菜じっくり煮込んで客を待つ

成田 あさ

一枚の空にほぐれる花こぶし

鈴木登美子

一筋に農継ぐ本家代田搔く

岩渕のぶ子

帰る子はすぐに当てたり根深汁

田代てい子

【桜川岩瀬俳句会】

下萌えややと歩みし兎の一步

菊池 すい

古刹なる御堂にささやく雪柳

大関しづ子

春雨にけふる里山静まりぬ

上野 好江

カラオケや春の笑顔の友揃う

永瀬 ちい

摘草の土の匂を持ち帰る

細谷 充子

ほく笑んで野焼きの中の石地蔵

長井 冬扇

## 短歌

【やまと短歌会】

をさなごの泣きこゑをのせみづみづと水

惑星の昇り来たれり

塚田 沙玲

朝には心を白にリセットしあなたとかわ

す言葉を探る

西岡 和子

ゆつくりと座つてくださいおかあさん

彼岸の母へ座布団送る

深谷 快子

雨あがり墨絵のごとき雲低く西空のみが

茜に光る

中原すみ子

亡き夫のコップがわりの手の水をもう一

度だけ飲みたかったよ

皆川 米子

喉ぼとけの温みに触れてみたる日の益荒

男君のおとがひ揺るる

塩谷 明子

【岩瀬短歌会】

紅白の歌「おふくろさん」に涙して二〇

〇八年の幕が降りるなり

浜野和 操

彩のなき庭にひと本金柑の撓なる実よ採

るをためらふ

岡野 禮子

逝きしまま七年夢にも顕ため亡夫を柳眉

逆立て責める初夢

石田 守子

足早に我を越し行く若者の演歌の着信音

を聞きたり

大久保富美江

乗り来たる晴着の女に媿達やさしく声掛

く「袖汚れるよ」

古賀 澄

いつしかに石の蛙は土手野辺にあそばす

如く孫等が移す

大関にち子

持込みは禁止と記さる芝居の座そりそ

ろそろ菓子など卓に

萩原きしの

梅咲いたよ幼の声と紅梅の香りに姑の部

屋は明るし

大関 節子

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ